毎週日曜日發行
發行所　磐城之實業社　大和田一郎
印刷所　大和田印刷所
定價　一部金五錢郵稅共　半年分一圓廿錢
廣告料　一行五十錢　但場所指定增十錢

磐炭を解剖す

磐城炭田の王者

地方經濟界に甚大の影響

磐城石炭界の王者として郡内炭礦の殆と五分の一の形大なる礦區を有する磐城炭礦は地方經濟界に非常なる關係あり其の振興……不振は直ちに波及して大衆を左右するの勢力あり然るに昨今の不況は從來三ヶ月後拂への商取引は今や六ヶ月と延長されるに致つたいでや業績の解剖を試みんとす

高率配當

磐城炭礦株式會社（資本金一千七十五萬圓、内拂込金九百十萬圓）は歐州大戰當時の所謂好況時代に於て十一割乃至十三割からの利益率を擧げ四五割の配當を行つたものである、大戰後も引續き二割乃至二割五分内外の利益率を擧げ一割の配當を續行し殊に大正十三年上期は震災後の好況に惠まれて一時三割六厘の利益率を擧げ八分配當より一割に增配した、然るに爾後當社の成績は期毎に低下し配當率は八分より六分に引下げ昭和二年上期の災害以來は遂に無配の餘儀なき到り前期まで六期間を通じて依然無配を續けてゐる今最近の業績を示せば左の如くである。

（單位千圓）

期別	利益金	利益率	配當
二年上欠	一〇	一	一
二年下	三三五	〇、七五	一
三年上	一五九	〇、三五	一
三年下	五〇一	〇、九五	一
四年上	三〇〇	〇、六〇	一
四年下	一		

歐州大戰當時より震災直後までは五十五萬二百噸を計上内四十五萬五百二噸を販賣して石炭收入四百五十二萬五千百五圓、雜收入一萬餘圓、鐵道收入一萬二千五百餘圓、收入合計四百七十七萬餘圓を計上之れより總經費四百四十七萬圓を差引き三十萬八百二十九萬圓の利益金であつたが對拂込資本利益率は六分六厘に當り

同業會社

四年上期

に比較し利益金に於て二十萬一千圓率に於て二分八厘の激減であつた、斯くの如く當社の成績は期毎に低下し内容亦惡化して昨年は一時支拂を延期したる事さへあるが今回更に茨城炭礦の突如休坑を發表する等如何に當社が現在窮境に遭遇しつゝあるかを察知し得るのである、而して炭界の不況は同業各社に共通であり炭礦會社はいづれも不況の影響を受けて惱んでゐるのであるけれども併當て比較的收益の多かつた當社が俄に

成績惡化

したには自ら特殊の原因がなくてはならない即ち

一、經營の放漫
二、決算の無理
三、未働資產の過多
四、茨城採炭會社の合併

等が夫れである而して當社の資本關係を見るに公稱資本金一千七十五萬圓にして舊株十五萬五千株、新株六萬株合せて二十一萬五千株のうち淺野、渡邊、三井、澤、大倉の各財閥にて七萬一千餘株を所有し總株式の三分の一以上を占めてゐる當社の

最大株主

として經營の任に當り渡邊一家が例の銀行破綻以來沒落してからも引續き渡邊六藏氏專務取締役に就任し淺野總一郎氏社長として實權を掌握してゐる、參考までに二千株以上の大株主を掲ぐれば左の如し

淺野同族會社	二、七、五六株
澤同族會社	一、五、四六六
三井鑛山會社	七、五〇〇
三井物產會社	七、五〇〇
倉田龜吉	五、三九九
大倉組	四、九六六
尾高一名會社	四、一三三
小坂武雄	三、四四〇
阿部純隆	三、〇〇〇
清水次郎	三、〇〇〇
生駒嘉夫	二、九六〇
小坂俊次郎	二、四九〇
阿部吾市	二、四四四
石崎石三	二、二四四
石井駒次郎	二、一〇〇
相澤テツ	二、〇〇四

（四年下期末現在）

而して經營の衝に當つて來た淺野、渡邊兩氏の方針は常に積極的であり擴張又擴張增配に次ぐに增配を以てし景氣の好い事夥しく然も好況後の

反動來も

災後の對策も關知する處なく實に華々敷き經營振であつた、積極方針も時に依つては好結果を齎すけれども財界の不況時に際會しては竟に放漫の譏りを免れない從つて決算の如きも内部保留を沒却して徒らに配當を重視する結果決算に無理が生じ内容が惡化して來る、當社の固定資產は一千三百五十萬圓であるが毎期の償却は僅か二十萬圓内外に過ぎない順調に行つて約四十年かゝれば償却出來る譯であるが常盤炭田には往々

出水爆發

等の災害があるから充分の償却を必要とする、好況時に於て十割以上の利益率を擧げ得たとすれば當時に於て今日あるを顧慮し充分の償却を行ひ内部保

平發電所

三百三十五萬六千圓もあり其他の鑛區諸機械に於ても同樣餘り効率を發揮してゐないものが多い、機械に思はれる、固定資產が拂込資本の倍額程度に上りしかも其の中には未働資產が多く平發電所丈でも拂込資本の三分の一に達してゐるのである

から勢ひ資產及投下資本に對する利益率は薄くなり且つ資金の欠乏を招來する、即ち當社は前記來現在にて未濟百十萬圓、仕拂手形二百十萬圓、借入金が二百十萬圓、割引手形四十八萬八千圓、割合に利益少なく且つ販賣價格は有力な重內礦ノ倉兩坑に全力を傾けてゐたものであるが此の方も最近益々

採炭礦區

は千代田、關口、重內、雁ノ倉諸坑を增して十二區より十七區となり其の面積は八百二十二萬坪となつた、從つて合併直後の當社採炭販賣高共に十數萬噸を增加してゐるが一方利益金は茨城採炭合併直前の十四年上期は七十四萬五千圓、十二年下期は八十八萬八千圓であつたに反し合併後は十四年下期六十六萬圓十五年上期五十八萬六千圓、同年下期五十四萬圓といふ如く却て利益が減少して來た、合併の結果礦區が增加して利益金は逆に減少したのである、茨界の不況にも依るけれども合併に依つて聊か當社が惠まれぬとすればボロ會社を背負込んだ事になり之れ丈内容が不良となつた譯である尤も

茨城採炭

會社は合併直前までは優先株に一割普通株に八分の配當を行つてゐるが之れは不合理の決算であつて其々不合理の決算があつた處には大なる無理があつたのである、此の茨城採炭は

漸く重視

三年上期は十四萬圓、同年下期は十萬圓四年上期は三十五萬圓、前期は二十萬圓を償却した、前にも述べたやうに資產總額に對しては猶は少なきに失するけれども兎に角可及的償却を行ふべく努めるやうになつた事は當社將來のため悅ぶべき傾向に相違ない、併し一度事業界を展望し炭界の前途を稽ふる時當社の成績は

經營難を

訴ふるに至り遂に今回休坑する事となつた次第である此點より見るも茨城採炭の合併は當社に對し如何に不利であつたかゞ明白であらう、斯くて當社の内容が次第に不良化した上に炭界は益々不況に向つて來たのであるから成績の惡くなるのは當然である、茲に於て當事者は大いに悟る處あつて

經營難を

か不況對策を樹立し種々業績の挽回に努めつゝある即ち坑内外の設備を改善して採炭能率を發揮した殊に住吉坑の如き比較的成績の良好なものに主力を注ぎ採炭費の輕減を期したのである一般的經營に就ても頗る眞面目となり淺野社長自ら老軀を提げて屢々山元に至り諸經費の節約稼行の督勵に當る等見るべきものがある

（完）

冷熱筆

『町長は町政執行に對し遺憾の点あり將來一層誠意を披瀝し町治い刷新を圖らんことを望む』との警告文を去十七日の平町會は滿場一致で然も議事錄に特記されたことは理事者町治の平素に一鞭を加へたるものに非ずして何ぞや然り而して稍ともすれば町政の行途に特に水道問題に意外なる奇形の實を結ばしめんとする暗黑面を幸ひに達觀し得たる議員多數の存するを吾人は感謝し且つ喜ぶものである町當局は町民の町政思想の體系を離れては存在を許さぬものである民心の集成は會議の決議となり民衆を離るれば提案の運命は强き暗示を受くるものである徒らに感情或は私交に左右され一部衆愚に媚びんかため構へて耳だに觸れ易き策を掲揚すあらば之は斷じて許すべきては無い其れ數多の集團に名稱を付しての活動は冷靜に歸れ

町政執行と豫算

〔興平生〕

豫算と家計（其一）

平町理事者の町政執行上には兎角非難の点が多々存するやうに噂が高い、豫算を無視し種目流用を勇敢に斷行して憚らざるものゝ如きは會議の決議權を蹂躙したもの攻撃されるのも當然と云はねばならぬ、此處に於て一席辯じ立てるの必要がある國家でも縣でも或は市町村でも財政は個人の家計と異りまづ支出を決定して然る後に收入を求むるものである而して町は個人大衆の集合して平町の如きは人口約三萬より組織されある權利團体なるが故に原則として固有の財産又は收入を有せずその町政の維持發展に必要とする經費は一般町民の負擔にまたねばならぬことは云ふまでも無いことであるまづ町の財政には個人の家計に見る事の出來ない收支經濟の兩面がある

豫算と家計（其二）

即ちその收入は支出經費を限度とすると共に必要の支出に對しては收入を供給するのは町民の義務であり責任である、亂費をなし種目流用を敢てなされては堪つたものでない所以が此處に存するのである、其の理由は之を個人の家計に於てならば支出は收入の範圍に止め成るべく收入を多くし支出を少くして剩余の多からんことに努めるのが經濟の根本主義となつてゐるのに比較すれば全く目的と手段とを異にしてゐるものである故に個人經濟に於ては、收入を目的として經營を行ひ、支出はその手段に過ぎないが町政に於ては支出を目的として經營し收入はその手段に外ならぬ、反言すれば個人は收支の差額を大ならしむる事を圖るが町政は收支相適合すれば足りるのである。

豫算と家計（其三）

町政は自治体ではあるが然し其の財政と個人家計との根本的相違は以上述ぶる所の如くであるがその結果としてはこの支出せねばならぬ此支出を負擔し收入を供給するのは町民の義務であり家計には收支の差引勘定が必要である、從つて財政には經費を支辨すべき財源の豐富なるを要するが家計には支出の源泉を制限することを余儀なくされるものである、財政の整理、經費の節約が必要とする以所は此邊より起るものである平町の如き水道擴張工事などの多額の膨脹支出金を要する場合は之を起債によつて外がないと云ふ事處から特別會計制度を設けして財政には歳入歳出の均衡が重要であり家計には收支の差引勘定が必要である、從つて財政には經費を支辨すべき財源の豐富なるを要するが家計には支出の源泉を制限することを余儀なくされるものである、財政の整理、經費の節約が必要とする以所は此邊より起るものである平町の如き水道擴張工事などの多額の膨脹支出金を要する場合は之を起債によつて外がないと云ふ事處から特別會計制度を設けて財政に特に平町の如く種目豫算額を勝手にされつゝあつては議員諸君の憤慨するのも無理からぬことで收入の範圍内に生活費を切り詰めなくてはならぬと云ふ事を豫算の數字が理事者の頭に空家札が帖付けあるも同然であるからである。

豫算と家計（其四）

此の鏡にはアナタの御顏と一緒に品質の上等といふことも映る筈です。

◇

贅澤の經濟！妙な矛盾した言葉ですが、それは弊店へ御起し願へば直に此謎が解けます。

◇

這り易く又出易い店ですが、一度御買求めを願ふと離れることの出來ぬ店だといはれて居ります。

◇

廉價は聲高き吹聽人です弊店の廣告員は即ちこれです。

◇

一錢儲けるのは難しい、然し十錢の節約はやさしい、弊店の割引デーを御利用下さい。

◇

舶來品でも値は內地製と同じです。

◇

時計は實務家にとつては必要品です、贅澤品では御座いません、私共の品は値も正確、品も正確です。

◇

値段はアナタを驚かせ、値打はアナタを首肯かせます。

◇

値段は他店と同じですが品が上等です、品は他店と同じですが値段がお安うございます。

◇

破れた靴をおはきになつてウツカリ風邪をめすよりは、此の安い靴を御求め下さい、靴の價は御醫者の藥よりも遙に御安うございます。

廣告文句

和歌

小川郷　若松超平

唱この不景氣を奈何

潛納を愚痴つてゐる人等のすぐ前を
貸切バスが風を切つてゆく

○

行李負ふて妻を連れたるなゝ藥
服使つて癒れと農村へ來る

○

不景氣にのろはれかて、春蚕を
逆蚕したりと云ふ友哀れ

○

小川郷　松崎幽泉

追はれ行くや五十過ぎたる老鑛
夫わずかの手當に妻子を連れて

○

あらがねの地下に働く坑夫等が
不景氣ゆいか酔ひたるを見ず

○

おのが糧にたしなき程の工賃に
唯々と働く選炭婦哀れ

× ×

小川郷　吉岡獨歩

百個に是の良藥が三石と
聞くし涙に償するかな

○

櫛も見ず帶もゝ解かず養蚕せる
が悔しさ哀は泣きて訴ふ

○

× ×

斯くまでに疾く知りつれば夜も寢れず
養蚕すべきやと妻は亦泣く

○

求めても與へられざる失業の
日に日に多くなるを怨めし

○

迅速……町噂
印刷物は……
大和田印刷所
南町　電話四六番

叩けども叩けども悲し就職の
扉は硬く開かんともせず

○

のるはしき世相なるかな空腹を
抱へて司馬失業に泣く

平町政審議會

◎問題の町會があつた去る十七日閉會後直ちに料亭大貞に集合した議員諸君連判帳を製造して曰く『町政審議會』なる名目を頂戴に及び喜んで申下つた。

◎町政審議會とは誰がつけた名稱かは知らぬがイカ樣而白い名で御座んすね。

◎一体まらぬ世話好きが役場だの町長の居宅だのに出入するといふのは賢明なる町長の所信を遂行する上に兎角頭を惱ませる種となり世間からは……イヤサ後は語り申さぬよ。

◎明治の刷新を圖らんことを望むことは三十名の議員全部の要求にあらねばならぬが名舉の審議會の意のある處と其の幅を知せる事とはどんな方面でご座んしよう。

◎由來平町會議員さん達は何かな名稱を付けた會員とならなければ心地の惡いと見いて一寸料理屋へ集つても直ちに審議會など申率る立派な會が組織されるには敬服に値へするネ。

◎審議會員しつかり頼むよ……ヤレ〳〵但し組合員の姓名たけは敬意を表して發こうよ、これが反つてよいと思ふから、それとも町民に知らせてあげようか……。

タクシーの御用命は新しい氣持のよい
昭和タクシーへ
電話　サシミ　三四三番

本社が平町會議員諸君へ御願ひの玉稿多數到着致し居り候へ共未着の分もこれあり何卒取急ぎ御發送の程願ひ上げます次號あたりに町勢特別號として發行致し度く一般町民の期待は切に候

戯曲　好いた同志の散策

（一幕）

平町本町通りの一角。

遂い此の前の土曜日の宵の午後七時半頃、初夏の街道は散策する人影多く その中を縫つてゆく行人に見様に依つては夫婦とも思はれるし變な眠には特別急造の臨時家族とも察しられる男女、女は二十三四歳、當今流行のオールバックに少々の人絹加入の節約單衣に男は二三年以前に新柄をほこつた洋服を着用に及んで煙草の煙を吐きながら歩いて行く三十二三の自稱ハイカラ。

●（女の方を見ながら）『歸るのはまた早いし何處でか一杯やりたいそれに腹もキタ山ときた、心細くなつて來たよ……』

女『およしなさよ（男の側へつりよつて）そんなに大きな聲を出して見つともないじやありませんか、お腹かすいたのならどこかのおそばやか……あらサロンがよい……』

●『今日は其土曜日だせ明日は休みだ僕が奢るよ決して君の家政費に否さ交際費に累を及ぼさないよ、だから静かな料理屋へ御足を運ぶとしようねどうだい、いゝだらう二人で大枚六圓もありやア澤山さ但しガールかわりにお前に勤勉これつとめさせるとしてアハ……』

●女（微笑して）『マアうまく云つていらつしやる、およしなさいよ、一寸料理屋へ行つて六圓なんてもつたいないわ、それたけのお金があつたら上等の銘仙の一反は買いますよ（モズン〳〵歩いて行く）

●男『おい、おいつたらおい、さう急ぐなよ、實際僕は腹かへつてゐるんだよ、まだ夕飯前の行進曲だせ、これが此春なら何處でか呼んで頂戴ねと來た寸法を今改めて妻君の經濟据りかね感心々々』

●女（思はず笑つて）『あなた本當に飲み助ね、ぢやね今晩はあたしが奢るわよアソコにしませう』

●男『切角だが斷るね（冗談のやうに）奢つて貰つた後が怖いや』

二人顔見合はして喜しそうに低く笑う

●女『それでは何處へも寄らないかわりにいづもの洋食屋へ注文して家い持つて來らせましようよ』

●男『經濟散歩は飲み食へ無しの御歸館とは情けないなア』

●女『あらまだ歸らないのよ、一寸買物しなくちやの身の上ですもの』

●男『ナアール程ナ、萬事は御意に從ふとして』

●女『いらつしやる』

●男『行きますよ』

●女『貴方これたけ買いたんですけれど、これで我慢するわ……届けて貰ひませう』

●男『無食散歩は呉服屋擁護利益促進運動でナアール程、奥様の經濟學要点はこゝにある、感心々々いやよくわかつたアッハ』

●女『何を笑うの？』

●男『俺は初めてわかつたよ、妻君經濟を』

●女『どういふこと』

●男『まあよつく先刻からの行進曲を順序を立てゝ考へて御覧そしたらわかるハヽヽヽ』

●女『大きな聲をしてきまりが悪いわ』（男しきりに笑ふ）幕

政黨嗅味なき　平青年團

事毎に政黨的色彩を發揮したがる平町に於て青年團たけは少しも其嗅味なく活動してゐる而して本月より十二月末に於ける行事豫定を擧ぐれば

▲六月團報の發行に資金造成の爲め活動寫眞

▲七月青年訓練行軍參加第四回町民体育大會、幹部の徴兵檢査立會

▲八月石城郡聯合青年團主催の中堅青年講話會、郡聯合青年團体育大會、一泊の豫定の見學旅行

▲九月平町に縣聯合青年團体育大會

▲十月秋季總會、講演會講習會

▲十一月青年デー、明治節祝賀活動寫眞

▲十二月團報第四號發行活動資金は僅かに町役場補助金四百圓に各分團の一分團五圓負擔の二十六分團百三十圓合計して五百三十圓の定收入では團員八百五六十名の活動は出來得ないのも無理からぬことであるが青年團は決して功利的團体ではなく生活充實完成せしむる伸びる力の修養團体でもある、然も團長の藤田榮助氏副團長多田井笑次郎、馬目雅治兩氏よく此の本質を發揮することに献身的に指導の任に當つて居るが消防なゝ云へば無理も道理として支出金に吝氣もない町理事者も青年教育の必要上この青年自身の自治的の團体を保護し援助し又は指導し監督すべきで活動資金の如きは寧ろ千圓以上を豫算すべきである。

諸根氏文献

著述家諸根樟一氏は今日迄の著書十數種に及び其の地方文献の努力實に偉大なるものがあり今後益々文化啓發に貢献すべく上京後も常に故郷磐城に往復して完全なる郷土史の大成に勉めてゐるが如きは感謝に値するものかある今回近世以前の飯野及國魂史料文書を編著して地方人の爲め好史料を提供し非常の好評に歓迎せりと云ふ氏は尚引續き著述に沒頭し居れり。

夏はラムネサイダー　年間に十萬本

平町民の咽喉をこす量

石は地べたにあぶりついてゐる街を歩いても家の中に居ても忍びよる暑氣に肌は忽ちあぶら汗にシツトリと汚れる此の騒ぎをするのも遠くはあるまい。

×

扨この景氣を身体の外に駆り出すためには、バタ〳〵と激しい團扇を使つたり煽風機に胸をあふらせたりするが最も簡單で應急的な暑熱退治は涼しい飲物の攝取だ。

×

そこで清涼飲料物の賣れ行き狀況はどんなものかと管見を試みると『おばちやん一本くんな』と心安く飛び込んでバチン、シユーと栓を抜くラムネ次に一寸ハイカラのサイダーが平町たけで一と夏の賣高が十萬本、一萬四五千圓内外と云ふ數字を示してゐる。

×

ラムネやサイダーにすつと讓遜してゐるのがソーダ水や平野水で年間の需用は二三千本程度である

×

近來大衆向きの清涼飲料物としてメキ〳〵愛用されるやうになつたものはアイスクリームで賣れる店では暑い日には三四百人の入りがあるとのことであるアイスケーキも仲々馬鹿にならぬもので一本一錢の色の着いた氷の棒が飛ぶ樣に賣れる賣高を總計するとこれ又素晴らしい額に上る事であらう。

×

市内で既に三百軒からの氷屋の届出があるその氷の賣行きは三千貫以上の日は夏場中三日位とのことで年を通じて平町を中心に附近をも加へて五千噸金額にして五萬内外であらうとの話である。

刷新の第一歩　事務檢閲

平町役場へ議員委員の事務檢閲は弛慢せる役場内の空氣に一大衝動を與へたもので一般から兎角の噂されある當局吏員に今後誠意の努力をなさしむべき好果を納めたものであるにかゝはらず事務一般は議員として當然知り置かねばならぬ其の職能を盡したる事を一部議員は是れを以てさながら理事者に含む處あつての行爲と誤解あるに至つては笑はせるも甚たしく自治体は議員理事者相互研究してこそ發展を計り得べきである。

青眼白眼

去る十七日の急施平町會で助役の答辯中火防費支拂濟云々と堂々云へ張つたが今度の事務書類檢閲で該補助金は未濟なることが見された、一事が萬事とすれば町會での答辯には何等信を置けなくなる譯となる賢明なる町議諸君以て如何となす▲出納男鎮は五月三十一日と定つて居る其れで土木費其他年度内に決濟せねばならぬ金がよほどあるとの事だが是等正式にすれば其後の支拂は後年度繰延べを町會の決議に待たねばならぬ筈であるのに是等の分を六月や七月に支拂つても帳簿記入には五月末日前の日付けとは驚いたものだ總ては書類さい誤魔化して記入してあれば後日の辯解には都合がよからう、然し正不正に此の邊からも發生するものであるぞよ。

常磐線假設興行

演藝　伊東一家
余興　讀負

小關小四郎

平町南町十番地

石城郡内ニ於テ假設興行ノ節ハ當事務所ヘ申込マレタシ

氷水開始

本年は値下げを斷行して氷水を相始めましたドーゾ御散歩がてら御來店を

氷水　四錢　種モノ　八錢

其の他何品にても大勉強いたします

平町南町二十三夜尊ツキ

大評判の　**小柳家**

出前迅速

解雇社告

鈴木清園

右者都合有之本月四日限り解雇致し候間爾今本社とは關係これ無候

磐城之實業社

平町三丁目

大黒屋勝治商店

電話一一六番

謹告

本社第二回座談會は司會者病氣の爲め遺憾ながら延期致し候へ共此處兩三日中御出席有志諸君へ御向ひの上開催致すべく候間右御諒承願上候

磐城之實業社

私設人力車駐車場
生天目義雄
平古鍛冶町八十八番地
御用命の御方は電話五五五番へ御掛け下さい直ちに馳せ參じます

柳川
相始めました
御一人前三十五錢
御員負の程願ひます
石川亭
平田町　電話四三

美術造花　葬儀用達
自轉車附屬品　卸商
常磐線平町四丁目
山光堂
電話五五〇番

日本履物店
平二丁目　三井文吉

外科　花柳病科　專門
平町六丁目橋際
木村外科醫院
電話三〇九番

初夏……サロンの新裝
店内に新綠の氣分を集め皆様の御期待に添ふ
アイスクリーム　五
ドーゾ御用命を……
田町　**サロン**
電話三五二番
（サロンの公休は毎月第三日曜）

高級新型の自動車
貸切は勉强、路線は好間
三井自動車部
電話八番　一五六番

時計
貴金屬
眼鏡類
蓄音器
修理は早く良く安く親切に
平町五丁目
金光堂時計店
電話七三六番

輝しい新綠の訪れ!!!
御土産に御進物に新味あり滋養豐富の
久保田のパン、菓子御用命希上げます
平町十五丁目（二十三夜尊堂前）
久保田
電話八〇四番

本舗改築中に付一時新藤屋支店前にて營業仕り居り候
マルトモ
柴田書店
電話二二四番

平町田町　電話五一三番
醫學士　高久忠
新潟醫學士　赤羽清
藥劑士　佐竹菊雄
高久病院
內科小兒科　外科花柳病科
耳鼻咽喉科　ヒンントゲン科

貸家營業
加藤營業所
平町白銀町

於石城酒造組合主催清酒品評會
六回連續優等入賞十二回利酒會
銘酒「小錦」
石城郡高久村
小錦釀造元
和泉屋酒造本店
鈴木喜太郎

電氣ストーブ電氣毒屋

和洋銅鐵金物問屋
釜屋商店
平町五丁目　電話九番　一三九番

鐵道省
磐城炭礦株式會社　御用達
三材木店　佐藤三平
福島縣石城郡內郷村大字小島字新町十一番地
平電話局四三〇番

海水浴旅館
海岸へ約半町
豐間濱　濱屋旅館
電話一九番

和久屋漆器店
平町一丁目
電話四〇五番

家具と漆器製造元
本丸ほん
平町三丁目　電話三五九番
工場　新田前

初夏の旅行と時計
メガネは大谷
器械部戰線異狀なし
優良なる品々で安く
殊に學生は元價提供
平三　**大谷時計病院**
電話十九番

衛生相談
處方調劑
藥品一般
滋養藥品
體溫計
時節柄寒暖計並
平町五丁目角
野邊藥局
藥劑師　山野邊東次郎
農藥其殺虫消毒特價提供

コールタール防腐劑　大勉强
一升二升のハカリ賣り
も致します
容器と塗ハケをお貸し
します
配達は飛行機の如きスピード

尙美堂藥店
平町田町通り（松月堂向ひ）
電話二六八番